

4.12²⁰²⁵ → 6.15²⁰²⁵

PRESS
RELEASE

甲斐国新装の武具と 川井家の陣具・鎧・兜 ・陣羽織・陣袴

特集展下

川井家の陣具・鎧・兜

National Historic Treasure of
Armour and Swords,
Paintings,
Children's Dag Dolls from the Mitsui Family



三井記念美術館
Mitsui Memorial Museum

2025.1.31

国宝の名刀と甲冑・武者絵

特集展示 三井家の五月人形

館蔵品の中から、国宝の短刀2点「名物 日向正宗」と「名物 徳善院貞宗」をはじめ、重要文化財7点を含む刀剣、および蒔絵の拵などを一挙に公開いたします。また三井家の遠祖 三井高安所用の甲冑と、春日大社に伝来し火災で焼損した大鎧を近代に三浦助市が模造した甲冑、そして絵画では掛軸の武者絵のほか呑呑童子絵巻や十二類合戦絵巻など、どこか漫画チックな合戦絵巻も展示いたします。特集展示は、近代に製作された三井家伝来の五月人形ですが、まとめて公開するのは初めてのことです。

展覧会名 国宝の名刀と甲冑・武者絵 特集展示 三井家の五月人形

National Treasure Swords, Historic Armor, and Warrior Paintings
Thematic Exhibition: Children's Day Dolls from the Mitsui Family

会期 2025年4月12日(土)～6月15日(日)

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(但し4月28日、5月5日は開館)

主催 三井記念美術館

入館料 一般1,200(1,000)円/大学・高校生700(600)円/中学生以下無料

※70歳以上の方は1,000円(要証明)。

※20名様以上の団体の方は()内割引料金となります。

※リピーター割引:会期中一般券、学生券の半券のご提示で、2回目以降は()内割引料金となります。

※障害者手帳をご呈示いただいた方、およびその介護者1名は無料です(マイロIDも可)。

会場 三井記念美術館 / Mitsui Memorial Museum

[〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井本館7階]

東京メトロ銀座線「三越前」駅A7出口徒歩1分/東京メトロ半蔵門線「三越前」駅徒歩3分A7出口徒歩1分

/東京メトロ銀座線・東西線「日本橋」駅B9出口徒歩4分/

メトロリンク日本橋(無料巡回バス)乗降所「三井記念美術館」徒歩1分

読者からの
お問い合わせ先 050-5541-8600(ハローダイヤル)

ホームページ <https://www.mitsui-museum.jp>

音声ガイド 音声ガイドでわかりやすく解説いたします(日本語のみ、貸出料700円)。

ナビゲーター 梶裕貴氏(声優・ナレーター)

ゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」(日向正宗役)、TVアニメ「進撃の巨人」(エレン・イェーガー役)をはじめ、アニメ、ラジオ、洋画吹き替えなど多方面で活躍中。声優20周年を記念してAI音声合成プロジェクト【そよぎフラクタル】を発足。

制作:株式会社アート・ガイダンス

※刀剣乱舞 ONLINE とのコラボ企画ではございません。

刀剣乱舞コラボ PCブラウザ & スマホアプリゲーム『刀剣乱舞 ONLINE』とのコラボ決定!

「刀剣男士 日向正宗」の等身大パネルの展示等を予定しております。

詳細は追って当館ホームページにてお知らせいたします。

その他 展覧会関連イベントについては、当館ホームページをご覧ください。

*開催内容を変更する場合がありますので、最新の情報は、当館ホームページまたはハローダイヤルにてご確認ください。
また、展示室内の混雑を避けるため入場制限を行う場合があります。



[図a]

©2015 EXNOA LLC/NITRO PLUS
「刀剣乱舞 ONLINE」刀剣男士 日向正宗
©2015 EXNOA LLC/NITRO PLUS

報道関係の方からの
お問い合わせ先

三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、大原、松井 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp

《展覧会の趣旨と展示構成》

● 趣旨：

江戸時代は「日本一の商人」として、近代以降は日本最大の財閥として発展した三井家は、商人の家系ですが、元祖三井高利の祖父三井高安は、戦国時代に近江の佐々木六角氏に仕えて越後守を名のった武将でした。六角氏が滅亡したあと伊勢国に移り住み商人となりますが、一族の間では後々まで先祖が武士であったことが意識されてきたことと思われます。それがうかがえるのが三井高安の所持と伝わる甲冑2点です。三井家の先祖を祀った顕名霊社のご神宝とされてきました。

三井家から寄贈された美術品の中には、国宝・重要文化財の名刀をはじめ武器武具が少なからずあります。名刀のいくつかは紀州徳川家との関わりから伝わりましたが、鷹司家との婚姻で伝わった刀剣などもあります。

絵画や工芸品にも武者の絵が題材とされたものがありますが、北三井家十代の三井高棟が好んだ象彦の漆器や蒔絵額には、三井家の先祖佐々木氏にゆかりの宇治川先陣争いの画題が好まれています。

特集展示の三井家の五月人形は、まとまった展示は今回が初めてです。刀剣・甲冑・弓矢・鉄砲などの武器武具、神話や芸能などを題材とした人形など、主に近代に製作されたものですが、それぞれ漢字一文字で所持した人を表す「御印」別に展示いたします。五月人形も財閥時代のものは豪華です。

以上、武士を先祖とした三井家のこだわり的一端をご覧ください。

● 展示構成：展示構成は以下のように展示室ごとのテーマで展示いたします。

展示室1：短刀と刀装具 国宝「日向正宗」

展示室5：十二類合戦絵巻と武者人形・能人形

展示室2：国宝「徳善院貞宗」

展示室6：ミニチュア五月飾り

展示室3：如庵 茶道具の取り合わせ

展示室7：三井家の五月人形

展示室4：名刀と甲冑・武者絵 酒呑童子絵巻

《主な出品作品》 *：広報用画像貸出作品

展示室1

短刀と刀装具 国宝「日向正宗」

最初に、短刀と拵などの刀装具を展示しますが、最初のケースで重要美術品の短刀「名物豊後正宗」〔図2〕、奥の中央ケースで国宝「名物日向正宗」〔図1〕と拵を展示いたします。館蔵の正宗の名物短刀2点を一緒に展示するのは久方ぶりです。それに合わせて鷹司家寄贈の短刀「八重姫貞宗」と拵も展示し、展示室2の国宝「徳善院貞宗」とともに正宗と貞宗の作風の違いがうかがえます。このほか、象彦の宇治川先陣蒔絵の硯箱〔図3〕と料紙箱、太刀や脇指の蒔絵拵〔図4〕など、短刀の名品と華やかな刀装具などでお迎えいたします。

〔図1〕*

国宝
短刀 無銘正宗 名物日向正宗
正宗作 鎌倉時代・14世紀

「日向正宗」は、石田三成が妹婿福原直高に与え、関ヶ原役で水野日向守勝成が手に入れたことによる。正宗短刀の筆頭にあげられる名刀。



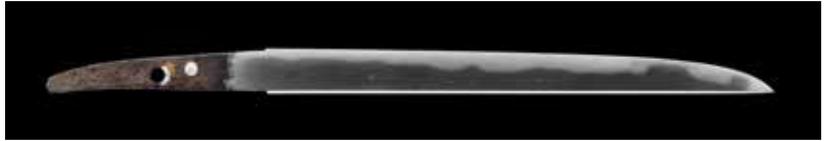
[図2]

重要美術品

短刀 無銘正宗 名物豊後正宗 正宗作

鎌倉時代・14世紀

豊後正宗は『享保名物帳』に載る。豊後の号は応仁の乱の東軍の将、多賀豊後守高忠の所持による。



[図3] *

宇治川先陣蒔絵硯箱 象彦製 明治時代・19～20世紀

佐々木高綱が梶原景季と宇治川合戦で先陣を争った場面で、硯箱に先を行く高綱が描かれている。三井家の先祖は佐々木氏であるところから、この画題が好まれた。

[図4]

葵紋蒔絵合口(短刀 八重姫貞宗の拵) 江戸時代・18世紀

北三井家十代・三井高棟の娘裕子が嫁いだ鷹司家から寄贈されたもの。鷹司家から五代将軍・徳川綱吉の養女となり、水戸徳川家に嫁いだ八重姫が所持した短刀(銘貞宗)の合口の拵。



展示室2

国宝「徳善院貞宗」

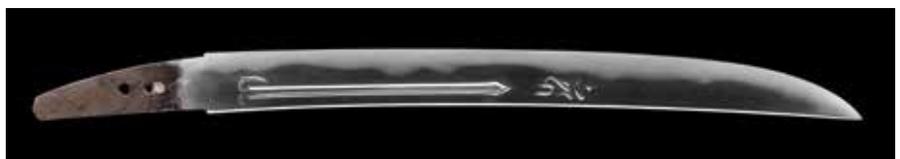
貞宗は、正宗の実子とも養子とも伝えられますが、相州伝の二人の最高傑作が展示室1と2で見られます。大きき的には脇指といえますが、国宝指定書では「短刀」として指定されています。豊臣秀吉が所持し、五奉行の一人前田徳善院玄以が拝領したところから、「徳善院貞宗」と呼ばれました。その後徳川家康、紀州徳川家、西条松平家へと伝わり、おそらく近代になってから三井家に伝わりました。

[図5] *

国宝

短刀 無銘貞宗 名物徳善院貞宗

貞宗作 鎌倉～南北朝時代・14世紀



展示室3

如庵 茶道具の取り合わせ

展示室3は織田有楽の茶室「如庵」を写した展示室です。明治40年頃から北三井家が所有した国宝の茶室で、戦後に名古屋鉄道の所有となり犬山市に移築されました。

ここでは五月の節句にちなんだ茶道具の取り合わせです。

床には三井高就筆の八幡太郎義家騎馬像 大綱和尚讃、茶碗は永樂保全の色絵兜苜蓿文平茶碗 [図7]、茶器は黒中棗、茶杓は吸江斎作梅木茶杓（銘薫風）、風炉釜は佐久間将監好の瓢箪風炉釜、水指は赤絵団龍文四方水指です。



[図6]

色絵兜苜蓿文平茶碗 永樂保全作 江戸時代・19世紀

永樂家十一代の保全作。五月の節句にふさわしい兜と苜蓿が上絵具で描かれた色絵の半筒形平茶碗。

展示室4

名刀と甲冑・武者絵 酒吞童子絵巻

重要文化財7点を含む館蔵の名刀9点を一挙に展示いたします。このうち3点に蒔絵の拵が付属しています。重要文化財の刀剣は、太刀（銘則宗）[図7・8]、太刀（銘助真）、薙刀（銘一）、太刀（銘国信）、太刀（銘兼光）、太刀（銘基光）、刀（銘国広 号加藤国広）[図9] の7点、あとの2点は太刀（銘国宗）と鷹司家寄贈の太刀（銘貞真）です。



[図7] *

重要文化財 太刀 銘則宗
則宗作 平安～鎌倉時代・12～13世紀

備前国福岡一文字派の祖ともいわれる則宗は、後鳥羽院の御番鍛冶をつとめたと伝えられる。御物や日枝神社の国宝太刀にならぶ則宗の代表作である。



[図8] *

葵紋蒔絵糸巻太刀（太刀 銘則宗の拵）
江戸時代・18世紀

太刀（銘則宗）の拵である。梨子地に葵紋が散らされた糸巻太刀で、徳川家に伝来したものであろう。



[図9] *

重要文化財 刀 銘国広 号加藤国広
国広作 桃山時代・17世紀

加藤清正の佩刀であったところから、「加藤国広」と号している。紀州徳川家に伝来した。国広は桃山時代に京の一条堀川に住み「堀川国広」と称された。新刀鍛冶の祖といわれる。

甲冑は、三井高安^{たかやす}の所持と伝わり、三井家の先祖を祀った顕名^{あきな}霊社^{れいしゃ}のご神宝とされてきた甲冑2点〔図10・11〕と、春日大社に伝来し火災で焼損した大鎧^{おおよろい}を近代に三浦助市^{みうらすけいち}が模造した甲冑〔図12〕です。



〔図10〕

縹糸素懸威胴丸具足

伝三井高安所用

桃山～江戸時代・16～17世紀

伊予札に銀箔を押し、縹色の糸で素懸に威した胴に烏帽子形の兜が付く。記録では安永年間(1772～1781)に奉納されたとあり、大正14年に修理がなされている。



〔図11〕*

白糸中紅糸威胴丸具足

伝三井高安所用

桃山～江戸時代・16～17世紀

白と紅の糸で威された胴丸具足で、小札と椎実形の兜は金箔の上に漆を塗った白檀塗である。宝暦5年(1755)7月に納めたと記される具足櫃に入り、これも大正14年に修理がなされている。



〔図12〕

模造 紫糸妻取威鎧^(歌絵金物)

春日大社伝来甲冑写 三浦助市作

昭和9年(1934)(寄託品)

奈良の春日大社に伝来した鎌倉時代の鎧の復元模造。原品は寛政3年(1791)の火災によって焼損し、金属部分のみが伝わる。罹災前の模写図や記録によって昭和9年三浦助市が復元した。

武者絵は、掛軸では狩野美信筆の八幡太郎義家図〔図13〕、安田靉彦筆の九郎義経。象彦製の蒔絵額では卷狩蒔絵額〔図14〕・宇治川先陣蒔絵額などの武者絵です。このほか、亀岡規礼筆の酒吞童子絵巻全3巻の武者絵的な場面〔図15〕を展示いたします。この絵巻は各巻の長さが14m前後ありますので、場面を選んでの展示になります。



〔図13〕*

八幡太郎義家図 狩野美信筆 江戸時代・18世紀

八幡太郎と呼ばれた源義家(1039～1106)が、後三年の役の際、雁の列が乱れるところから、野に伏す兵を察知したという逸話を画題とした武者絵である。



〔図14〕

卷狩蒔絵額 象彦製・瀬川嘯流作 昭和時代初期・20世紀

狩りょうぞく狩装束をつけて騎乗する二人の武士が蒔絵で表されている。巻狩は狩場を多人数で囲み、獣を中に追い詰めて射取る狩猟法で、源頼朝が行った富士の巻狩が有名である。



[図15] *

酒呑童子絵巻 全3巻 亀岡規礼筆 江戸時代・18世紀

平安時代、源頼光ら6人の武者が、都から貴族の娘をさらう鬼「酒呑童子」を討つ物語を描いた絵巻。円山応挙の弟子亀岡規礼の筆である。

展示室5

十二類合戦絵巻と武者人形・能人形

ここでは十二類合戦絵巻全3巻を展示します。動物が擬人化されてどこか漫画チックで楽しい絵巻です。甲冑をつけた動物たちの合戦場面は人間さながらです。これも各巻10m以上の長さがあり場面を選んでの展示になります。

独立ケースでは五月飾りのうち、かわいらしい武者人形や能人形を展示いたします。



[図16] *

十二類合戦絵巻 全3巻 江戸時代・19世紀

十二支の動物たちと狸とその一味との合戦物語である。重要文化財の「十二類絵巻」(個人蔵)を江戸時代に写したものである。中世に盛んとなった異類物文芸の御伽草子の一つといえる。

展示室 6

ミニチュア五月飾り

小さな展示室6では、五月飾りの中から、ミニチュア的な武器武具や旅道具を展示します。

[図17]

五月飾り ミニチュア武器武具
江戸～明治時代・19世紀

ごつかざ
五月飾りのうち、ミニチュアの火縄銃・大筒・ゲベル銃などの武器に、三井家の四ツ目結紋の馬印と丸にト紋の纏、同じく家紋のまんまく
幔幕など。細密工芸としてよくできている。



展示室 7

三井家の五月人形

三井家の雛人形は、桃の節句ひな祭りの季節に「三井家のおひなさま」として恒例の展覧会となっていますが、三井家の五月人形を展示する機会は今までほとんどありませんでした。今回の展示がほぼ初めての展示になります。

端午の節句の飾り物である五月人形や五月飾りは、武将や刀剣・甲冑・弓矢・幟など尚武の気風に満ちた武将や武器武具が主体となります。この度の「名刀と甲冑・武者絵」の展覧会にふさわしい内容といえます。

展示する作品は、主に近代以降の財閥時代に製作されたもので、北三井家と伊皿子三井家からの寄贈品ですが、各個人を漢字一文字で表す三井家独特の「御印」ごとに展示いたします。



[図18]

五月人形 神功皇后・武内宿祢 2体
しょうじるし
章印(三井之乗) 三越製 昭和初期・20世紀

北三井家十一代・三井高公 (1895～1992) の四男
三井之乗 (1931～2013) の所持。三越製である。



[図19]

五月飾り 平安朝飾馬 1軀
しょうじるし
章印(三井之乗) 昭和初期・20世紀

箱書に「平安朝 飾馬」とあり、式正の馬具を
備えた飾馬である。章印の三井之乗の所持品。



国宝の名刀と甲冑・武者絵

特集展示 三井家の五月人形

展覧会広報用画像について

展覧会の広報用貸出画像データ／読者プレゼント招待券をご希望される方は、下記ご確認の上お申し込みください。

- * 画像は展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。展覧会終了後の利用、また二次利用はお断りしております。
- * 画像掲載にあたっては、【記載クレジット】を必ずご記載ください。
- * Webサイトで掲載の場合は、必ず画像にコピーガードをかけてください。
- * 読者プレゼントの際には作品画像を掲載し、展覧会会期中にご紹介ください。またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴社、貴編集部にてお願いいたします。
- * ご掲載紙・誌等は広報事務局までご送付ください。

〔貸出画像リスト〕 作品掲載にあたっては下記の情報をご明記ください

図1	国宝 短刀 無銘正宗 名物日向正宗 正宗作	鎌倉時代・14世紀	三井記念美術館蔵
図3	宇治川先陣蒔絵硯箱 象彦製	明治時代・19～20世紀	三井記念美術館蔵
図5	国宝 短刀 無銘貞宗 名物徳善院貞宗 貞宗作	鎌倉～南北朝時代・14世紀	三井記念美術館蔵
図7	重要文化財 太刀 銘則宗 則宗作	平安～鎌倉時代・12～13世紀	三井記念美術館蔵
図8	葵紋蒔絵糸巻太刀(太刀 銘則宗の拵)	江戸時代・18世紀	三井記念美術館蔵
図9	重要文化財 刀 銘国広 号加藤国広 国広作	桃山時代・17世紀	三井記念美術館蔵
図11	白糸中紅糸威胴丸具足 伝三井高安所用	桃山～江戸時代・16～17世紀	三井記念美術館蔵
図13	八幡太郎義家図 狩野美信筆	江戸時代・18世紀	三井記念美術館蔵
図15	酒呑童子絵巻 全3巻 亀岡規礼筆	江戸時代・18世紀	三井記念美術館蔵
図16	十二類合戦絵巻 全3巻	江戸時代・19世紀	三井記念美術館蔵
図a	『刀剣乱舞ONLINE』 刀剣男士 日向正宗 ©2015 EXNOA LLC/NITRO PLUS		
読者招待券	5組10枚まで受付	※申し込み受付は 2025年4月11日まで	

お申し込み方法

当館ホームページ「プレスの方へ」ページの申込フォームに必要事項を入力し、お申し込みください。

入力いただいたアドレスに広報事務局よりメールをお送りします。



三井記念美術館ホームページ「プレスの方へ」ページ
<https://www.mitsui-museum.jp/press/press.html>

プレス関係の方からの
お問い合わせ先

三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、大原、松井 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp